

岡崎市社会資本整備総合交付金

「乙川リバーフロント地区整備計画」中間評価 議事録

日時：平成30年2月7日（水） 13：15～

場所：岡崎市役所 東庁舎5階 503号会議室

出席者

（評価委員）

委員長：愛知産業大学学長 堀越 哲美 氏

委員：日本政策投資銀行業務課長 奥村 朋久 氏

委員：愛知工業大学工学部教授 松本 壮一郎 氏

委員：名城大学理工学部教授 松本 幸正 氏

欠席者

（評価委員）

委員：豊橋技術科学大学 井上 隆信 氏

（事務局）

岡崎市総合政策部企画課副課長 岡田

岡崎市総合政策部企画課係長 植村

岡崎市総合政策部企画課事務員 藤井

岡崎市都市整備部乙川リバーフロント推進課課長 香村

岡崎市都市整備部乙川リバーフロント推進課副課長 神谷

岡崎市都市整備部乙川リバーフロント推進課係長 鈴木

岡崎市都市整備部乙川リバーフロント推進課主査 大河内

玉野総合コンサルタントまちづくり企画課係長 川口

（傍聴人）

なし

事務局	<p>（「乙川リバーフロント地区整備計画」の、指標、実績、指標達成状況、評価について説明。）</p>
松本(壮)委員	<p>評価基準において観光という言葉が何度か出てきているが、どのような観光のことを言っているのか。岡崎の市民が遊びに来ること、これも観光なのではないか。康生が寂れてしまっているの、岡崎市民がこのQuruwaへ遊びに来るとい街にしてほしい。</p> <p>東岡崎の乗客数についても、市外から人が来ているのではなく出て行っている可能性が高い。市外から来る人が多いのであれば康生はもっと賑わっているはずだが、実際は減少している。挙げられた指標では、市外から入ってきているのか分からないので、市内の人の動きに視点を当てて、市内循環バスの乗車率等を指標にした方が良かったのではないか。</p>
松本(幸)委員	<p>全体としてはいい取組みであり、目標に向かって良い方向へ進んでいる。ただ今回の実績値が、今回の整備を行ったことにより達成できたかという点必ずしもそうではないかもしれない。他の要因で盛り上がった部分と、今回の整備が要因で盛り上がった部分もあるので、そこを少し精査しても良いのでは。また、そこが精査できたならばより挑戦的な目標を持ってもらいたい。</p> <p>今後のまちづくりで、Quruwaは面白い取組みだ。本整備金で整備を進め、公共空間を民間の方に使ってもらい、より活性化していくのは良い流れだ。</p> <p>また国費を使う際の経費削減努力だとか、品質確保の工夫があれば伺いたい。</p>
事務局	<p>公共の工事だと細かい数字が出るので、様々な側面から削減を行った。またソフト事業の方では、社会実験等で岡崎市は色々な場を設けて民間に参加してもらおう工夫をしていた。その中で民間が自発的に啓発し動いたことで、今まで1000万円程度かかっていたことが半額程度で済むというような事例が出てきている。</p>
松本(壮)委員	<p>日本の観光という点で考えると人道橋のデザインに疑問が残る。観光ではなく市内の人々の生活重視の計画になっている。川は格好良く流れているのになぜはまっすぐなのか。岡崎の良さが無くなっていくように感じる。</p>
奥村委員	<p>目標で掲げられている「水辺の安全・安心」という考え方では、遊歩道の整備などを含めてハード面は着実に進められている。</p> <p>「新たな交流・賑わいの創造」という点は、人がいないと始まらない議論なので人の賑わいが市民利用でも市外の人利用でも構わないと考えるが、外から人を呼ぶには強力なコンテンツが必要となるので、市民利用も前提とした賑わいの創造という考え方で良いだろう。</p> <p>「歴史・文化を活かした魅力の継承と創造」というソフト面は今後の課題で、新たな指標の提起もあるので進め方としては適切である。</p> <p>交通インフラの改善に関しては、1号線という街を分断するようなも</p>

	<p>のがあるため、川の周りは進めていけると思うが、りぶらや籠田公園まで進めていくのは難易度が高いと考える。そういう意味でも非常に挑戦的な計画だと考える。街のリノベーションに関しては、歴史的な建物や魅力的な建物もある一方、そうでない建物も多い。まちづくりという点では一旦古くなった街なので、作り直しは非常に難易度が高いだろうが期待も大きいかと思われる。官民連携の持続という考え方で、イベントを70日行っていくというのは労力も大きく挑戦的な計画。</p> <p>課題はあるとは思うが、元々の計画の考え方と目的と実施状況という点では概ね順調であると考え。</p>
委員長	<p>効果発現要因について、今後は回数より中身の検討を進めることで、説得性が増すと思う。Quruwaという考え方自体の良さを表に出していくことが必要だと考える</p>
松本（幸）委員	<p>今後の進め方としてまちの課題の変化について考えるということが良いと思う。しかし新しいものを取り入れリニューアルをしていくということは、昔からの岡崎の良さというのが失われつつあるようにも思われてしまう。ここに古くからあるものを守り、発信していこうという内容を入れることでもっと良いまちになるのではないかと考える。</p>
松本（壮）委員	<p>りぶらができた時に新しい文化を創られたと感じた。りぶらを活かしたまち、りぶらから派生する康生のまちという視点を持たなければならない。</p> <p>またソフト面は非常に充実していると思うので、その実施状況をもう少し具体的に示す指標があっても良いのではないかと考える。</p>

【結果】

この中間評価案が妥当であることを判断する旨、委員一致で採決された。